



秋月吟壽

第一回安土城址摠見寺コンサート

―秋の名月と筑前琵琶のゆうべ―

■期 日 平成27年10月25日(日)
午後5時開場 午後7時～8時半

■会 場 安土城址 伝豊臣秀吉邸跡
※雨天の場合は摠見寺本堂

■演 奏 筑前琵琶 「熊谷と敦盛」 田中旭泉
仕 舞 「敦盛」 味方 玄
筑前琵琶 「大徳寺」 田中旭泉

■入場料 前売3,000円 当日4,000円
※軽食・飲料品などがついています。

■定 員 200名

■主 催 一般社団法人 安土城址摠見寺保勝会

■協 力 一般社団法人 近江八幡観光物産協会

■問合せ 一般社団法人 近江八幡観光物産協会
0748-32-7003 <http://www.omi8.com/>

■販 売 近江八幡駅北口観光案内所 0748-33-6061
安土駅前観光案内所 0748-46-4234



秋月吟壽

- 秋の名月と筑前琵琶のゆうべ -

■趣旨

音楽を通して摠見寺と地元との交流を深め、近江・安土の発展を願う

■日程

平成27年10月25日(日)

17:00	開場
17:00-19:00	会場内にて軽食(混ぜご飯と豚汁)、飲料水を交換
19:00	開演
19:00	笛の演奏
19:10	筑前琵琶「熊谷と敦盛」田中旭泉
19:40	休憩
19:55	仕舞「敦盛」 味方 玄
20:10	筑前琵琶「大徳寺」 田中旭泉
20:40	終演

■プロフィール

田中 旭泉(たなか きょくせん)

1970年 福井にて出生。1976年 琵琶の収集家であった祖父の影響を受け、矢吹旭津美師匠に琵琶を習い始める。1992年 矢吹師匠他界後、人間国宝 故・山崎旭萃師匠の直弟子となる。京都にていづ美会を主宰。琵琶奏者の登竜門といわれる「第30回琵琶楽コンクール」にて最年少優勝。文部大臣奨励賞、日本放送協会会長賞など受賞。1993年 筑前琵琶橘流日本橋会師範免状取得。1995年 大阪文化祭奨励賞受賞。1999年 フランス、ドイツ公演(NHK インターナショナル・フランス日本文化会館・ドイツ日本文化会館主催)。2001年 拠点を京都から岐阜に移し芸道の研鑽を重ねる。2007年 山崎旭萃師匠他界後、山下旭瑞師匠、箕浦旭声師匠に師事。

味方 玄(みかた しずか)

能楽・親世流シテ方。2011年重要無形文化財(総合)認定。1966年10月8日京都にて能楽師・味方健の長男として生まれる。弟に能楽師・味方團。自らの社中である青嶺会で謡と仕舞を、NHK文化センター、国際交流会館、同志社女子大学能楽部にて指導。師匠である片山幽雪師は重要無形文化財保持者(人間国宝)、芸術院会員、片山家能楽保存財団理事長等を務める能楽会の重鎮であり、味方の絶えなき探求の良さ理解者でもある。また、味方の実家である十念寺は能を愛好した足利六代將軍義教の建立で能とはゆかりが深い。十念寺の住職であった祖父も能を愛した一人。母親は彼がおなかの中にいるときも能を舞っていたとか…。こうした環境は、幅広い活動の素地となり、バックボーンとなった。能におけるシテ方は、通常の舞台でいう演出家や舞台監督の役割も兼ね、時には大道具も作る。さらに、もっと自由に独自の舞台世界を創り出すため、味方玄はテアトル・ノウを主宰。第1回目の公演は、江戸時代に大名や武家が能舞台ではなく、自らの屋敷に客を招いてサロンの雰囲気の中で演能を楽しんだ「座敷能」を再現し、1996年十念寺で開催。ろうそくやかがり火の光や風さえも効果的に演出された古風な形の能は、好評を博した。また情報発信の為、能のみかたくらぶを発足。2006年に「能へのいざない」(淡交社)を出版(2012年二版発行)。その後もテアトル・ノウは回を重ね、2007年には、初の東京公演を実現させた。

■説明

筑前琵琶「熊谷と敦盛」約30分 作詞 犬塚通草 作曲 初代 橘旭宗

元暦元年(寿永三年)二月、一の谷の合戦は源氏方の大勝利と決まりました。熊谷直実はさらに功名を上げようと須磨の渚に馬をすすめ、立派な身なりの平家の武者を見つけます。大將軍と思しき武者と熊谷との一騎打ち。熊谷に押さえつけられた武者の顔を見れば、まだ十六、七の美少年でした。熊谷は、武者と同年代の実子が惚ばれて、命を奪うことがためらわれ、見逃そうと思います。しかし、背後から源氏の軍勢が近づいてきており、泣く泣く首を掻き斬るのです。若き武者の名前は、平敦盛。鎧のうちからは「小枝」と呼ばれる笛が出てきました。思えば昨夜、熊谷が聞き惚れた笛の音色は、敦盛が奏していたのです。

筑前琵琶「大徳寺」約30分 作詞 菅谷秋水 作曲 初代 橘旭宗

織田信長の追善法要が、紫野大徳寺にて執り行われました。勝家が北畠信雄、神戸信孝に向かい焼香を勧めたそのとき、豊臣秀吉が幼少の三法師丸を抱え現れ、織田家二代の当主は、三法師丸であると主張します。「元老であっても、主君信長の敵討ちに一矢もむくいぬ腰抜けは御霊前にわびられよ」と秀吉にののしられた勝家は、刀の柄に手をかけますが、すでに都は嵯峨、船岡や鷹峯、東寺烏羽のあたりまで、秀吉の軍に取り囲まれ、勝家は籠の鳥、秀吉の力の前には及びませんでした。

■諸注意

- ・夜間のため、伝豊臣秀吉邸跡より上は、大変危険です。会場以外の立ち入りはご遠慮ください。
- ・石垣・草むらなどには、マムシなどの危険動物が潜んでいる場合がありますので、むやみに立ち入ったり、手を入れたりしないでください。
- ・雨天の場合は、摠見寺本堂にて開催いたします。その際にはご案内申し上げますので、指示にしたがって行動してください。(ただし、この場合以外は摠見寺への入場はご遠慮ください。)
- ・伝豊臣秀吉邸跡付近にはトイレがありません。事前にお済ませください。
- ・軽食・飲料の引き換えは開演(19:00)までです。その後の引き換えは無効となります。